

器

われ一つの器を持つ
朱き下繪と
黒き配色
ほのぼのと
白を浮べて
はかなしや
もろく貧しき器を蔵む
われ この器もて
卒然と
酒くみしことあり
をみなと臥して
肌のぬくみ
ぬすみしことあり
はた思ひなかば
すぎるものあり
おのれ投げうちて
こばたむと思ひしことあり
そのありし日の
名残をとどめて
染に濁れる
底はくぢけ
縁は歪みて
あなおもしろき姿かな
さはれ いつの日か
年古りし色もち添へて
わびしらに
光をはなち
かけがひのなき
器なりせば
三十路の今ぞ
しみじみいとほしみつ